



自治連だより

第33号



就任の挨拶

鳥取市自治連合会
会長 土橋 周美

令和四年度の定期総会（コロナ禍による影響で書面開催）において、鳥取市自治連合会会長に就任することになりました。このような大役を仰せつかるには、誠に微力ではございますが、皆様方のご協力を仰ぎながら各種事業を推進していきたいと思っております。

一昨年より全国各地で猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症は、昨年も感染拡大が終結せず、皆様の地区でも、色々な行事が、制約を受けたり、中止となったりしたと思います。そうした中、町内会・自治会では、日頃の声掛け等の見守りの体制がより一層重要なものとなります。

地域住民が安心・安全に暮らせるまちづくりを目指し、皆様と共に頑張っていきたいと思っております。

終わりになりますが、皆様方のご健勝、ご多幸を祈念し、重ねて町内会、鳥取市自治連合会活動へのご協力をお願いいたします。会長就任のご挨拶とさせていただきます。

湖山西地区

学校・大学・池・空港と町内会が一体となったまちづくりに向けて

湖山西自治会
会長 山本慶治郎

湖山西地区には、北に鳥取砂丘コナン空港、南に湖山池があります。その間を県道とバイパスが走り、その両側に住宅が東西に長く広がっています。

また、小学校をはじめ、高校が二校、鳥取大学があります。

湖山西自治会には二十七の町内会があり、それぞれに活動をしています。鳥取市の春と秋の一斉清掃のときに、湖山池北岸の環境美化活動をしています。

湖山池北岸には、ボートの艇庫があり、高校生、大学生が部活等で練習をしています。その艇庫より西側の遊歩道沿いの草刈



湖山池北岸の環境美化活動

りをしていきます。以前は、空き缶拾いもししていましたが、今は環境整備されたため、空き缶は捨てられていません。この活動には各町内会から二名以上、各種団

体、中学生、高校生、大学生も参加しています。今年は、五月十四日（土）に行いました。前夜からの雨で心配しましたが、開始する午前八時には雨もやみ、草刈りを実施しました。長く伸びていた草もきれいに刈られ、見晴らしがよくなりました。

鳥取砂丘コナン空港を空の駅として活性化するために、地元的女性有志で「鳥取空の駅女子会」が、平成二十六年十二月に結成されました。

「チャーター便で来県された外国からの観光客等を歓迎し、空港で行われる各種イベントを応援する。また、地域の小学校・公民館活動に参加、交流して地域づくりの推進をする。」などの活動をされています。

湖山西小学校は鳥取砂丘コナン空港の近くにあり、空港の活性化と子ども達の学習活動の発展につながりを持つと、令和三年二月から、「コニシ空港ギャラリー」として、児童の描いた絵を空港のロビーに展示しています。空港を利用されたときに観ていただければと思います。

最後に、一地区の中に、学校・大学・池・空港があるのは珍しいことではないかと、今、この文章を書きながら思いました。私は、湖山西まちづくり協議会の会長でもありますので、この組み合わせを何か形にできないものかと考えてみたいと思います。



湖山西小児童の絵(空港ロビーに展示)

美保南地区

地域ボランティアで子どもを育む

美保南地区区長会

会長 西原 牧夫

美保南地区は国道五十二号線と二十九号線が交差している地区で交通の要所であって子どもたちの通学には安全が必須であります。こんな時、三年前に「子ども見守り隊」を発足させ朝夕の見守りを百六十名の地域ボランティアが子どもを見守っています。従来から子ども達との関わりはお米の田植えから刈り取りや梅ジュース作りを一緒にしてきました。

遠足には見守り隊や地域ボランティアが遠足往來を見守り子ども達の「ありがとう」の大きな声が響いています。

学校の環境整備にも地域ボランティアが活躍し、何があっても小学校との関わりが続いています。美保南地区には宅地化が進み人口に比例して子どもの数が



子ども見守り隊

増えつつあり、「子どもは地域の宝」の意識が浸透しつつあることが地域住民

の合言葉になっていきました。子ども達にもあいさつと感謝の意識が芽生えつつあり、卒業を前にした三月、六年生が地域内をゴミ拾い清掃して「感謝」を形で表したことがあります。

今年の一月には新しく町内会が発足して美保南地区へ加入、一見、平均年齢三十代、高齢化している町内会がある中で将来への楽しみを感じ、子どもへの大きな期待となっています。子どもへの教育や支えで将来への地域反響を考える時、その昔、戊辰戦争に敗れた長岡藩の「米百俵の精神」をふと思い出しました。長岡藩の藩士小林虎三郎は三根山藩からの見舞い「米百俵」を、今は米百俵であるが、子どもへの教育に使えば、米千俵や万俵になると。生活に窮した藩士らを説得した有名な実話があり、小泉元総理の所信表明演説にも引用されました。美保南地区は買い物や病院施設等生活インフラは十分整っていますが、これからの美保南の繁栄を考えるには、子どもの大きな成長期待があり町内の賑わいは地区の繁栄に繋がるものと思ひ頑張っております。



「6年生のお掃除ボランティア」活動の見守りに参加するまもるんじやーの皆さん

賀露地区

「子育てしやすいまちづくり」を目指して

かる子育て支援ネットワーク

事務局 大黒 進

今嶋 三郎
岸 多津

賀露町では、昨年（令和三年一月）の自治会総会において、「まちづくり協議会」を「自治会に再編統合」し、従来二頭立てとなっていた「まちづくり活動」を一本化することとしました。

この再編では、町内全ての活動団体を自治会のもとに組織化したことから、目詰まりを起こしていた町民への広報も一本化し、自治会活動の「見える化」を進めています。

また、賀露町自治会においては、前記の再編統合と併せて「子育てしやすいまちづくりを目指す」ことの議論も並行して進めてきました。

賀露町においては、休止していた見守り活動を再び動かすため、平成三十年「賀露地区子ども見守り隊」を結成し、登下校の見守りなど町民が子どもの安心安全に関心を持っていただく活動を進めています。

また、賀露小学校では一昨年（令和二年春）地域と学校と保護者が一体となって子どもを見守る「チーム賀露」

構想を呼び掛けられ、地域が関わる仕組み（校内見守り、学習支援など）が整いました。

このような取り組みの集大成として今年二月、自治会が主導して賀露版子育て支援ネットワーク（通称「かる子ども庁」）を立ち上げました。

このネットワークの有機的連携により、子どもたちを取り巻く輪が広がり、ひいては、少子高齢化の解決策の一助となることを期待しています。

● ネットワークの概要

（目標）親子が健やかに安心して子育てができるまちづくり

（目的）子育て支援の情報共有・情報交換・団体間の連携調整

（モットー）無理をしない。できる事を、できる人が、できる時に、できる範囲で。

（構成員）自治会関連の全組織（公民館、社協、民児協、観光協会等含む）のほか、小・中学校、保育園、賀露かっこ

こ館など

子ども関連の機関

（活動主体）当面、主任児童委員等を中心に

関係団体

が連携して活動

ネットワーク設立会議



ネットワーク設立会議

米里地区

**米の里のまちづくりは
土づくりから**

よねざとづくり協議会

会長 **福田忠司**

鳥取平野の南に位置する米里地区は自治会加入世帯数約九百三十で、田んぼの広がる里山に古墳群や寺社のある旧米里と、市街地に近い住宅地の雲山の二エリアからなります。「米里」の名のとおり、米作りを中心にした平和で穏やかな地域です。また、昔から教育に熱心で、小学校には郷土文化発展の母体として教育後援会が設けられ、子どもたちは、地域の人たちとの交流の中で、米作りや環境の大切さ、越路雨乞い踊りに代表される地域の伝統芸能文化を学んでいます。



かるたウォークで古墳を望む

平成十五年に米里地区自治会が発足し、その後、よねざとづくり協議会も設けられ、三大行事（地区運動会、地区納涼祭、米里まつり）などを通じて、古くからのむらと新しいまちの間での交流を深めながら米里のまちづくりが進められてきました。

しかし、コロナ禍のため、住民交流の場がめっきり少なくなりました。そこで、何か新しい取り組みができないかと、令和二年に中学校保護者らを中心とした実行委員会で検討し「米里かるたウォーク」を実施しました。これは、平成十七年度に地域文化再発見事業の一環で製作した「米里かるた」に取められた推しスポッポを歩いて巡るものです。中学生も企画段階から参加しながら初めて訪れたという声がありました。毎年ルートを変え、今年度三回目を迎えます。

また、地域内での対話やつながりを維持しなければならぬと、リモートで会合ができるよう、オンライン機器を整備し、実地研修も行いました。早速使う機会がありました。特に機器の扱いに慣れている現役世代の参加を確保するためには有効で、今後の活用を期待しています。

地区住民の穏やかな暮らしを守り、将来も住みやすい地域とするためには、多くの人に関わってもらうことが必要です。そのため、地域の現状を知ってもらい、組織ややり方を簡素化し負担を軽減して、地域の担い手を増やしていく。地道ですが、持続可能なよねざとづくりの土壌をつくり、平和な米里の風土を次世代へつなごうと取り組んでいます。



オンラインでの会合にチャレンジ

鹿野地区

**勝谷の魅力再発見、
そして発信**

勝谷のひと・こと・ものを見直し、
多くの人に伝える活動

勝谷元気づくりの会

会長 **長谷川 誠一**

勝谷地区は里の真ん中を南北に一直線の県道が走り、その西東に十八集落が点在する地域で人口は一、六一〇人で構成されています。「里を貫く直ぐい道」をテーマに掲げ、市の指導の下平成二十一年に町づくりがスタートしました。近年県内外からの転入者や新たな企業の参入など地域環境は大きく変貌し、世帯数も年々増加傾向にあります。



勝谷ウォーク

ここ数年は、コロナ禍でこれまで当たり前となっていた生活を一変せざるを得ない状況となり、「密」を避けるた

一方では、豊かな自然や史跡・事業所などの社会資源、様々な知識や技術・伝統を有する「人」にも恵まれた地域です。

めに「集う」ことを制限され、活動の多くが中止・延期・縮小など苦慮しているのが現状です。

しかしながら、「地域の魅力を再発見し、発信する活動を通じて、一

層の地域愛を育む。」「幅広い世代の地域住民が共に活動することを通じて、地域で人を育てる機運をさらに高める。」を基本方針として、地域住民の積極的な参画を得て、元気な地域づくりを目指しています。

具体的には、「元気納涼祭」「げんき祭り」など多数の方に参加いただけるイベント、「史跡や企業の現地研修」「正月遊びや門松づくり」など歴史や文化の伝承・新たな発見、「花いっぱい運動」や河川の美化活動」など環境整備事業、「あいさつ運動」「避難訓練」などの安全で安心なまちづくり事業を実施しています。

勝谷地区の一部には高規格道路が通り、ICや道の駅「喜楽里」も出来、交通形態が大きく変貌してきました。地域資源を絶やさず、暮らしやすい生活の場としての人の活性化は何時の時代も考えていかなければならない問題です。戦国時代から交通の要衝の地として栄えた今後の鹿野地域の発展に期待したいものです。



勝谷元気まつり

久松地区

コロナ禍に挑む
規約全面改正と
ふれあい再生

湯所町一丁目一区町内会
会長 木下法広

鳥取城跡に隣接した我が町内は、この数年、多くの町内会もそうであったように数々の行事が見送られてしまっているのが、昭和三十七年制定の規約を全面改正することである。

先人の努力が偲ばれる旧規約は、制定以来一部改正を重ねながらも、今日の時代や地域の状況にそぐわない部分が目立つようになってきた。そこで、将来の認可地縁団体等も視野に入れながら、全体を六章二十条で構成した新規約と細則を、まず試案として制定した。



規約・細則（試案）

ところで、我が町内会の掲げる目標は、「ふれあい」である。ここ数年あらゆるところでリモートだとか



ふれあい検討井戸端会議

パーティーションなどというものに隔てられ、人のぬくもりや心の通う関係性が希薄な対面を余儀なくされてきている。

今年度は、この「ふれあい」をキーワードに、皆が集って様々な活動を実施すべく、二十数名の正副班長さん達に話し合ってもらった。焼き肉パーティー、久松山登山、餅つき、古地図に沿った地域探検、スイーツづくり、ミニ講演会等々、随分話が盛り上がり、気持ちはずでに楽しい場面の方があったようだ。

実施にあたっては、日々の生活場面で挨拶や声かけなどを前提としながら、感染症対策という新たな生活のありようも踏まえ、世代を超えて多くの住民が集える工夫を凝らしたい。

鳥取県自治会連合会の動き

令和三年度

◇第二回正副会長会

(二月二十五日、倉吉市)

◇中四国自治会連絡協議会

(二月) 開催中止

令和四年度

◇令和三年度監査会

(四月六日、倉吉市)

◇第一回正副会長会

(四月二十七日、倉吉市)

◇令和四年度定期総会 (五月、鳥取市)
※新型コロナウイルス感染症防止の為、書面表決となった。

◎総会

・令和三年度事業報告及び収支決算報告、監査報告
・令和四年度事業計画(案)及び収支予算案

役員選出

- 会長 土橋 周美 (鳥取市)
- 副会長 奥田 登 (米子市)
- 副会長 笠見 猛 (倉吉市)
- 理事 新 潤一 (鳥取市)
- 理事 福田 正美 (鳥取市)
- 理事 西原 牧夫 (鳥取市)
- 理事 水田 憲夫 (鳥取市)
- 理事 谷口 真澄 (鳥取市)
- 理事 新見 博士 (米子市)
- 理事 加藤 朗 (米子市)
- 理事 高橋 誠一 (米子市)
- 理事 脇坂 喜啓 (米子市)
- 理事 生田 均 (倉吉市)
- 理事 米舛 隆生 (倉吉市)
- 理事 林 達夫 (倉吉市)
- 理事 西崎 豊嗣 (鳥取市)
- 監事 西川 功美 (鳥取市)

以上、原案通り承認されました。

退任挨拶

鳥取市自治連合会

前会長 南部 敏

令和四年度定期総会がコロナウイルス感染症拡大防止のため、代議員百五十名による書面表決により提出議案全てが承認されました。

私、才学非才にて皆様大変ご迷惑をおかけしたかと思いますが、逆に皆さまからの叱咤激励、ご指導ご鞭撻を賜り、大過なく任を終えることが出来ました。改めまして心より感謝とお礼を申し上げます。

世の中の多様化が予想以上に早く、自治会運営も影響を受けることが予想されます。困った時はお互いさまの精神で助け合いながら発展して行く地域を目指し、ご活躍されることをご期待申し上げます。

鳥取市自治連合会の益々の発展と皆様のご多幸ご健勝を祈念し、お礼の言葉といたします。

編集後記

令和四年度の定期総会(書面表決)で南部会長が退任され、明徳の土橋会長が新任されました。前南部会長、長い間ありがとうございました。コロナ禍ではありますが、令和四年度事業にとりくんでまいります。

二年間コロナでとりやめていた、先進地の視察研修、三市姉妹(姫路市・岡山市・鳥取市)交流がコロナ禍ではありますが出来ることを願いたいとおもいます。新体制のもと令和四年度一年間頑張ってくださいますので宜しくお願い致します。

広報委員長 新 潤一